

一目でわかる医科統計学

第2版



監訳：吉田 勝美

A4変 頁164 2006年
定価3,570円(本体3,400円+税5%)
[ISBN 4-89592-459-9]
メディカル・サイエンス・インターナショナル刊

日本における臨床・治験研究の実施数は減少しており、国際的な治験ネットワークから取り残されるという危惧が囁かれている。国際的に評価される臨床・治験研究には適切な統計学的デザイン、分析がなされていなければならないが、残念ながら本邦では、大規模な臨床・治験研究ネットワークの構築が遅れている。臨床医、臨床統計学者、統計学者、疫学者の連携が十分でないことがその理由と考えられる。

一般臨床医がエビデンスに基づいた診療を行ううえで、統計学的な知識をもっていなければ適切な評価を行うことはできない。それでも統計学を避ける傾向があるのは、今までの統計学教本が理論から入るため、理解が困難であるためと思われる。書店には、統計学入門書が満ちあふれているが、どれを取っても難解であり、目の前にあるデータを処理するうえで消化不良を起こさざるを得ない。コンピュータソフトの統計パッケージの内容改善は著しく、統計学を理解していなくても統計解析結果が得られる。しかしその解釈には、統計学的知識が必要とされる。

疫学を目指す予防医学や保健学の学徒にも、上

記のことは当てはまる。多変量解析を行わなければ学会誌に受理されることが少ない現状では、統計学の基礎的知識をもたずに論文を書くことは難しい状態となった。一通りの統計学を学んでも、実際に自分で調査を企画し、解析し、考察をする段になれば、実用的な医科統計学の教本が必要になる。

上記のような状況では、多くの時間をかけずに統計学を学べて、適切に統計解析が可能になる教本が待たれるところであるが、まさに本書はその条件を満たしている。それは多くの章が実地問題呈示で始まり、簡潔な説明と図表を多用した説明、統計事例からなり、2,3ページ、ときに4ページ以内にコンパクトに収められているからである。医学部学生、医学・保健学系大学院生、疫学、薬学、臨床・治験研究に携わる人が、必要な統計学的知識を自己学習で学びやすい工夫がなされていることに感嘆せざるを得ない。巻末の用語集やホームページを利用してできる多肢選択式試験も自己学習の確認になる新たな工夫である。

統計学の入門書ではあるが、医学研究の多くの領域で欠かすことのできない、科学的根拠に基づく医療(EBM)、システムティックレビュー、メタアナリシス、生存分析、バイズ法についての記載もあり、専門家にも参考書として満足のいく内容と思われる。

このように優れた書“Medical Statistics at a Glance”の初版を5年前に翻訳し、この度2版の監訳をされた吉田勝美教授と聖マリアンナ医大の翻訳者らに謝意を表するとともに、医療保健学専攻の学生や学徒に本書の購読を強く勧めたい。